

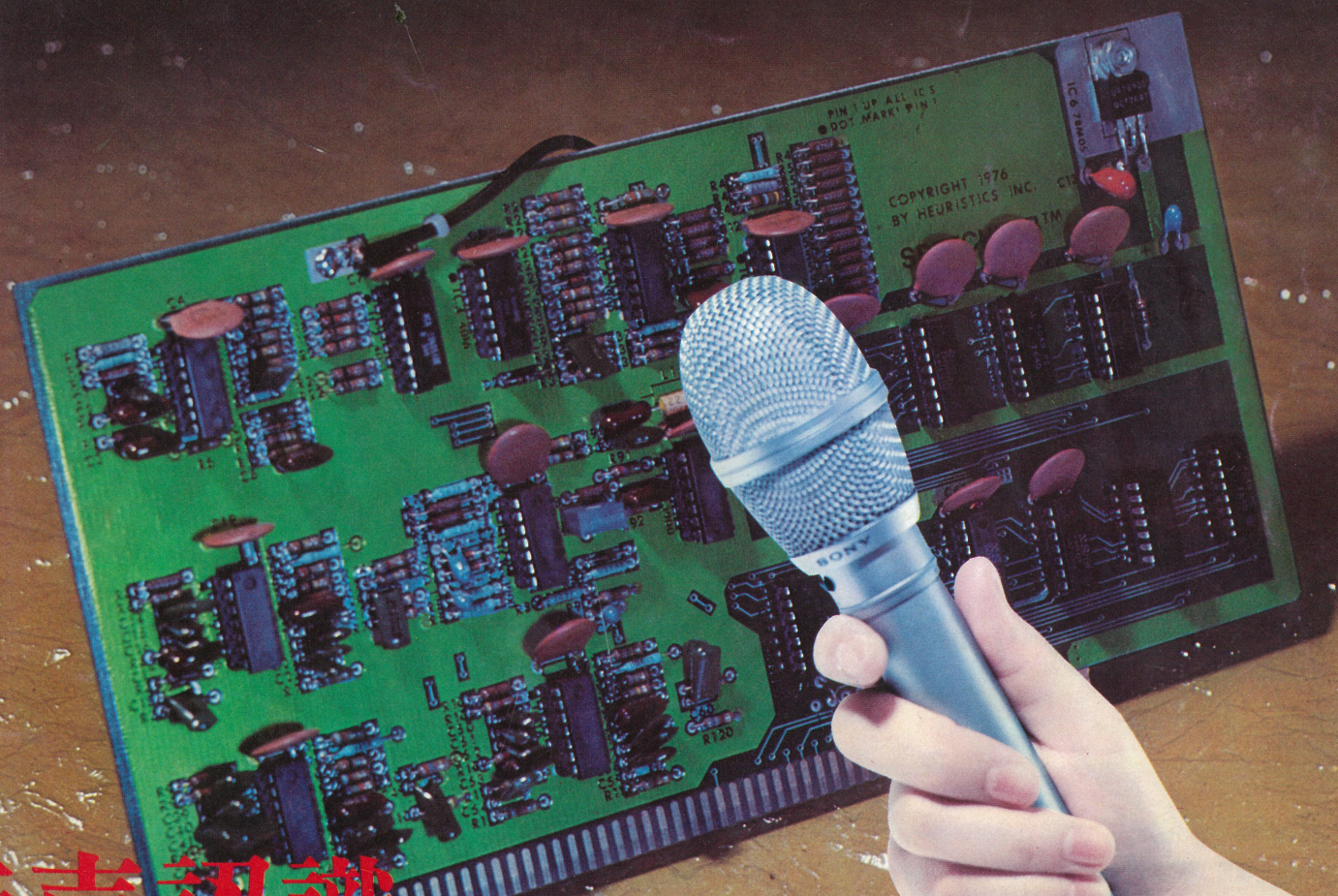
アスキー

ASCI

マイクロコンピュータ総合誌

7

A monthly journal of
Micro Computer Science
July, 1977, ISSUE=1



音声認識

IC19個の音声聞きわけシステム

●He-Neレーザーの製作 ●アメリカのスタンダードS-100 BUS

これからの言語BASIC

●ドン・バーカー著 コンピュータ犯罪

新製品情報

●TIの1チップ92Kバブルメモリー

●SMCのCRTコントローラー

NEW LSI

●対数圧縮ができるA-Dコンバーター

発行人 西 和彦
 編集人 塚本慶一郎
 編集・製作 大野 俊治
 鈴木 茂利
 倉上 文子
 美術 大久保敦子
 翻訳 鈴木 敦子
 業務 郡司 明郎

発行所 ㈱アスキー出版
 〒107 東京都港区南青山
 5-6-4 ハイトリオ305
 ☎ (03)407-4910

マイクロコンによる音声認識

スピーチラボ片山泰男..... 6

Ne-He

レーザーの製作山岡 進.....20
福田好孝
高橋宏爾

これからの言語

BASIC山根順二.....30

アメリカのスタンダード

S-100BUS加藤 勲.....34

シンセサイザ

コンピュータミュージック原 真.....36
のすすめ

コンピュータブックカタログ

コンピュータ犯罪44

著者からのことば

マイ・コンピュータ入門安田寿明.....45

CRTコントローラ、バブルメモリー

NEW LSI 2

オーディオ・カセットの規格

カンザス・スタンダード榎本五郎.....24

シンセサイザ

文献情報近藤泰嘉.....26



ASCII Magazine, published monthly by ASCII Publishing,
 305 HI TORIO, 5-6-4 Minami-Aoyama, Minato-Ku, Tokyo 107, Japan.
 Subscription rates: JAPAN ¥6,000, all other countries \$30,00.
 ASCII Magazine COPYRIGHT July 1977 by ASCII Publishing. ALL
 RIGHTS RESERVED. Material in this publication may not be reproduced
 in any form without permission. Requests for permission should
 be directed to ASCII publishing, 305 HI TORIO, 5-6-4 Minami-
 Aoyama, Minato-Ku, Tokyo 107, Japan.

ホビーとの訣別

ホビーとしてマイクロコンピュータが注視されており、今までマイクロコンピュータの記事は専門紙の専売特許だったのに、ほとんど一般向のすべての週刊紙、月刊誌が、なんらかの形で「マイコン」を紹介する記事を書きました。おもしろおかしくというのがそれらの記事の基本的な執筆方針ではないのかと思うこともありましたが、反面、マイクロコンピュータが実用化された時期が過ぎ、遂に日常化されるようになったきざしと考えると大きな期待を感じます。

昨年11月に創刊した月刊ホビー・エレクトロニクス情報誌「I/O」は、今日のマイコン・ホビー・ブームのはしりでもあり、また、そのスーパースターの急成長も今となってはみればむしろ必然であったとも言えるのではないかとすら考えたくになります。

創刊号が皆様のお手もとに届く頃、米国では全米コンピュータ会議 (National Computer Conference) が開かれた直後で、そこでマイクロコンピュータを個人的な目的に使用する、いわゆるパーソナル・コンピューティングが一般に学会レベルで認められるようになるようです。

ここにホビーではない新しい分野、「コンピュータの個人使用：パーソナル・コ

ンピューティング」が出現したと云うことができます。

ひととおりマイクロ・コンピュータのシステムをそろえるためには最低20万円はかかります。20万円を単に純粋な遊びのためになげ出す人が国民的レベルで増加することは期待できそうにありません。

何の理由でもいいのです。とにかく自分で納得のいく目的があること、それがマイクロコンピュータに取り組む人の備えなければならない最低条件になるのではないのでしょうか。

マイクロコンピュータは家電製品にも積極的に使われて、産業としての地位を確立しつつありますが、今まで大型が担ってきた計算とか処理などの機能を備えたコンピュータが個人の手のとどく商品となったら、それをどのように分類したらいいのでしょうか。

電卓の延長ではないと考えます。家庭や日常生活の中に入ったコンピュータは、テレビやビデオ、ラジオのような、いわゆるメディアと呼ばれる、コミュニケーションの手段になるのではないのでしょうか。テレビは一方的に画と音を送り付けます。ラジオは声を音を、コンピュータはそれを決して一方的に処理はしません。誇張して言うなら、対話のできるメディアなのです。個人個人か自分の主体性を持ってかかわり合うことができるもの——これが次の世代の人々が最も求め

る解答であると思うのです。

「ブーム」といってさわがれているその理由が、かつてのBCLと同じように内部からの自然発生ではなくて、外部からの励起によるものであることは明らかですが、これがブームから革命に移る過程は、自発的に、主体的にユーザが行動できるかということにかかっていると思います。

1人でも多くの読者の目に

読者の中には、小誌の記事が米国の同じ分野の雑誌の焼き直しだと批判的なご意見をお持ちの方がいらっしゃると思いますが、正式に認められた翻訳であり、原典を解説・発展させたものであればそれは「まね」以上の記事であると考えます。「学ぶ」という語彙も「まねぶ」ということがその語源としてあるということ。言語の壁を取りはらい、「1人でも多くの読者の目に」というのが原著者や小誌の願いでもあります。

翻訳スタッフ

ASCIIでは翻訳のスタッフを求めています。何よりもまず、日本語が書けるというのが条件です。身近の英雑誌のページとその訳文を編集室まで送ってください。

原稿の書き方

ASCIIでは、製作報告、新製品速報、ソフトウェアのリスト、回路図、アイデア、評論、コンピュータの社会・心理学的考察、うわさ、苦情……など、原稿を募集しています。以下の要領でお願いします。

- 事実をありのまま、残さず書く。
- 出しおしめない。
- 原稿は原稿用紙に書く必要はない。い

やしくもコンピュータをやっている人間はラインプリンター用紙のうらを使いましょう。

- 原稿を書こうかなとまよったら、まず編集室 (03)407-4910まで電話してください。特に夕方から夜はスタッフが居ります。九州や北海道からの電話はこちらからかけなおします。
- 都内のひとは原稿を持って編集室まで

来てください。地下鉄表参道駅下車2分。

- 締切は毎月15日です。
 - 活字になった原稿には原稿料をささやかながらさしあげます。なお、LSIなどの現物支給は相談してください。
- 原稿送り先：〒107 東京都港区南青山5-6-4 ハイトリオ305 アスキー出版編集室 必ず電話番号を！